

気仙沼高等学校 SGH プログラムのフィールドワークの受け入れを行いました(2020/12/12)

場所：東北大学災害科学国際研究所

参加者：佐藤翔輔准教授，新家杏奈（D1），門倉七海（M2），渡邊勇（M1）

12/12（土）に，宮城県気仙沼高等学校から生徒 45 名が東北大学災害科学国際研究所を訪れました。同校は，スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校の一つになっています。気仙沼高校は「海を素材とするグローバルリテラシー育成～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～」というプログラム名で SGH 事業に採択されています。今回は，SGH プログラムで実施されている「地域課題研究」の一環での訪問になります。「地域課題研究」は，同校の生徒が 3～4 名のグループになり，プログラムに関連する任意のテーマについて研究・発表を行うものです。今回の訪問は，東北大学ほか，宮城教育大学や東北工業大学などの大学を訪れ，各グループの専門の研究者から助言を受け，情報収集を行うフィールドワークとして実施されたものになります。

東北大学災害科学国際研究所では，当研究室の佐藤翔輔准教授が受け入れを行い，全 13 グループに対して面談を行い，アドバイスをいたしました。また，面談以外の時間帯は，関連テーマの研究を行う大学院生 3 名が研究内容や大学生活のことについて発表を行いました。

各グループの研究テーマ

- 15XD 班 津波から海と陸の豊かさを守る強い町をどうやってつくるか
- 11XB 班 災害マニュアルをすることにより気仙沼高校生の防災意識を高めることは可能か
- 15XE 班 災害が起こった時，住民が安心・安全に過ごせる街とは？
- 1115A 班 三陸の海は震災の前と後で気仙沼にどのような持続可能な利益をもたらしたか
- 1117A 班 災害時における SNS の有用性について考える
- 1118A 班 気仙沼市における復興により有効なのは観光客増加か住民増加か
- 1118B 班 コロナ禍で震災の教訓を学ぶには，どうすればよいか
- 1119A 班 中高生が連携した語り部を行うことは私たちの防災意識向上に繋がるのか
- 1122A 班 気仙沼市民向けの防災アプリの有効性について
- 1319A 班 気仙沼市内における石碑の有効利用について
- 1323A 班 気仙沼市における高校生がすべき地震、津波の初期対応
- 1519A 班 震災の記憶がある人々を対象にした記憶の風化防止のための有効手段について
- 1523A 班 災害時の気仙沼において科学技術は人々の救済の要となるだろうか。



佐藤翔輔准教授の面談の様子



新家（D1）



門倉（M2）



渡邊（M1）

（文責：渡邊勇）